

盛岡市教育研究所研究指定 中間発表

**課題に粘り強く取り組み、
根拠をもって自分の考えを表現できる子どもの育成**

～気付きと対話のある授業実践を通して～



盛岡市立高松小学校

研究主題

課題に粘り強く取り組み、
根拠をもって自分の考えを表現できる子どもの育成

～気付きと対話のある授業実践を通して～

研究の基本的考え

＜今日的課題から＞

実生活で生きてはたらく力

- ・他者と協働して課題を解決する力
- ・情報を再構築するなどして新たな価値につなげていく力



論理的に思考し、表現する能力、互いの立場や考えを尊重し
言葉で伝え合う能力の育成

＜本校の教育目標から＞

校訓

やりぬく心

校風

**よく学び、
よく遊ぶ**

めざす子ども像

「思いやりのある子」

「考える子」

「明るく元気な子」



失敗しても、最後まで諦めない心、目標に向かって粘り強く頑
張る心をもった児童を育成

＜子供の実態から＞

昨年と一昨年の県学調、全国調査の結果より

- ・国語、算数ともに、基礎的・基本的な力がおおむね定着。
- ・「授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」の項目で積極的肯定をした児童の割合が低い。
(3割～3割半ば)

校内アンケート、授業の様子より

- ・授業の内容がわかる、国語や算数の学習が好きであると回答する児童が9割。
- ・教師の話に素直に耳を傾けながら学習に取り組んでいる。
- ・考えの根拠や理由を示しながら相手にわかりやすいように自分の考えを表現したり、相手の言葉を受け止め、思いを汲み取りながら聞いて意見を交流したりすることが得意ではない。

考え・表現する力の向上を目指した授業改善
育てていきたい資質・能力

「課題に向けて粘り強く取り組む」

「筋道を立てて考え表現できる」

研究主題



課題に粘り強く取り組み、
根拠をもって自分の考えを表現できる子どもの育成

【研究目標】

気付きから課題を設定し、課題に粘り強く取り組み、根拠をもって考え表現できる子どもを育てる。

〈研究内容 1〉

課題にむけて粘り強く取り組む
学びのくさびとなる
振り返りの工夫

〈研究内容 2〉

根拠をもって表現する
伝え合う活動を通して
学びを深める指導の工夫

〈研究内容 1〉

学びのくさびとなる振り返りの工夫

(1) 自己の学びや変容を自覚させる振り返りの工夫

＜振り返りの視点＞

- 良かったこと・できたこと・なるほどと思ったこと・・・達成感
- 自分の考えが変容したこと・新しい考えが生まれたこと・・・自己有能感
- いっしょにできたこと・みんなとできて楽しかったこと・・・一体感
- 次に学習してみたいこと・やってみたいこと・・・学びへの期待
- 生活に生かせそうなこと・役立ちそうなこと
 - ・・・学びと生活・社会との関連付け
- 過去の学びと今日の学びとの共通点や相違点の発見
 - ・・・自己の学びの自覚

(2) 気づきを促す工夫

① 単元構想の工夫

単元を通して身に付けさせたい力やめざす子ども像の具体的な姿を明確にする→全体を見通した授業づくり。

② 明確なゴールの設定と問いを生む導入の工夫

単元の出会いや単位時間における問いを生む導入の工夫。

〈研究内容 2〉

伝え合う活動を通して学びを深める指導の工夫

(1) 根拠をもって伝え合う指導及び授業の組み立ての工夫

① 必然性のある学び合い

- ・ 学び合いの充実とその積み重ね
- ・ 子どもの学びを受け止めつなく教師の姿勢
- ・ 子どもの学びを丁寧に見取るための明確な評価規準

② 学び合いの形態の工夫

- 一斉での学び合い **一斉での学び合い**
- グループでの学び合い
 - ・ 同一グループ
 - ・ 異質グループ
 - ・ 機械的な分け方のグループ

(2)学習の深まりに気付かせ、有用性・汎用性を自覚させる 指導の工夫

- ①既習の知識と新たな場面や異なる状況をつなげる
場面の設定
 - ・友達から学んだこと
 - ・みんなと学んで新しい考えが生まれたこと
 - ・みんなと一緒に学んだからできたこと
 - ・生活に生かせそうなこと 役立ちそうなこと
- ②教師による教科のよさの価値づけ

〈学びを支える土台〉

基盤となる学級経営の充実

- ・間違っても認められる安心感のある学級経営
- ・粘り強さ・協調性・自利心・やり抜く力などを育成する対応
- ・特別支援教育の視点を取り入れた「どの子も」育てる綿密な指導（ユニバーサルデザインを意識した授業や指導）
- ・学年での情報交流や教師相互の参観による日常的な授業や指導法研究

高松スタンダード



全校の学習の約束 ー高松スタンダードー

ご家庭へのお願いー学習用具についてー

1. 学校で使用する学習用具
② 学習用具の準備や確保の方法について
<授業における机上の学習用具の配置>

教科書	ノート 下は空 (書くページの 下にしく)
-----	--------------------------------

教科書はよく削ったものを1本用意する
部については必ず用意する。
(学年によっては部・斉断書)
削りしぎみの下に断書とペンを置く。
断書利きの断書は右断書の通り、左断書利き
断書は左右両方に置く。
削んで入れは、机の奥にしまし。

<机の周り>

道具箱 ・ふで入れ ・はさみ ・のり ・クービ ・定規、筆 必要な学習用具	ノート 教科書 ドリルスクリュー	○道具箱 ・びねば ・紅白指子 ○断書 ・断りた本 ・断書カバ
---	------------------------	--

断書及断書本面に
断書のない物は
入れない。

家庭学習

- ・担任…授業と連動した家庭学習
- ・児童 保護者…家庭学習の手引き配布

家庭学習ノート交流 紹介

高まつ小学校 家庭学習の手引き(4年)

4年 題名 (吹き出しはご家庭のみさんへのお願い)

1. 自分で目標や計画を立て、家庭学習を毎日つづけてがんばる

2. 自分のため

3. 家庭学習のやくそく

家庭学習をする時のやくそく

- 1) 予定表を使い、計画を立てる
- 2) つくえや「予」のふたを「せ」のふたにして始める
- 3) 自分や問題を思いかき、勉強しよう
- 4) 目標かみ学習(読書)は、まじむ、やろう
- 5) 答えがあるときは、まごつけを自分でしよう

家庭学習の時間 50分以上

4. 家庭学習のながれ

その日「先生」や「て」で「家」で「勉強」

勉強のながれ

- 漢字練習(ローマ字練習)
- 算数練習
- 国語練習
- 理科練習
- 英語練習
- 読書練習
- 自由研究
- その他

勉強のながれ

- 漢字練習
- 算数練習
- 国語練習
- 理科練習
- 英語練習
- 読書練習
- 自由研究
- その他

勉強のながれ

- 漢字練習
- 算数練習
- 国語練習
- 理科練習
- 英語練習
- 読書練習
- 自由研究
- その他

読書活動の充実と習慣化

全校一斉朝読書



学年別推薦図書

今年度の実践

〔研究内容1〕 課題に粘り強く取り組むための工夫について
学びのくさびとなる振り返りの工夫

(1) 自己の学びや変容を自覚させる振り返りの工夫

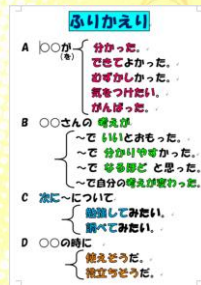
6年 国語 教材名「時計の時間と心の時間」

- ・前時に学習した文章構成図を掲示し主張と事例の関係を捉えやすくした。
- ・授業の終末では、分かったことだけでなく、交流により自分の考えが変容したことなどを振り返っていた。



4年 算数 単元名「角の大きさ」

- ・振り返りの視点を掲示し、目的に応じた振り返りを目指した。
- ・授業の終末の振り返りでは、視点を与えることで、学びの広がりを実感できた。



(2) 気づきを促す工夫

1年 国語 教材名「うみのかくれんぼ」

- ・「うみのかくれんぼずかん」を作るというゴールを単元の導入で示し、意欲付け
- ・文章の構成を既習事項と比べて、共通点と相違点を確認した。生き物の違いによる内容、文章構成の比較により、自力解決につながった。



1年 算数
 単元名「3つのかずのけいさん」

- ・導入で、3枚の絵を順番に出して具体的な場面を確認した。
- ・前時までの問題と比べ、違いに目を向けることにより、本時の課題につながることができた。

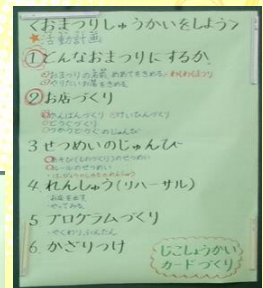


さくらんぼ学級 生活単元・自立活動
 活動名「お祭り集会をしよう」

- ・単元のはじめに、活動の計画を示すことにより、見通しをもちながら活動することができた。
- ・本時の活動の流れを示すことにより、主体的に活動することができた。

さくらの活動

- ① ああでの発表
- ② 一人てれんぼう
- ③ ペアてれんぼう
- ④ 発表(～さず)
- ⑤ ふりかえり



〔研究内容2〕

伝え合う活動を通して学びを深める指導の工夫

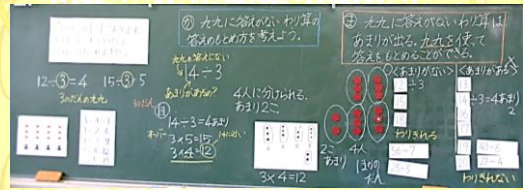
(1) 根拠をもって伝え合う指導及び授業の組み立ての工夫

2年 国語 教材名「たんぼのちえ」

- 教材文を並び替える際、どんな言葉に着目すればよいか確かめた。並び替えの根拠となる言葉に線を引き、考えの理由にできるようにした。
- 考えを共有する場面では根拠となる言葉を互いに発表し、大事な言葉は何か考えることができた。



3年 算数 単元名「あまりのあるわり算」



- 学び合いにおいて、おはじき、図、式を関連付けて根拠を述べながら説明することにより、理解を深めることができた。

(2) 学習の深まりに気付かせ、有用性・汎用性を自覚させる指導の工夫

5年 国語 教材名「固有種が教えてくれること」

- 前時までにまとめた段落ごとの要点や筆者の主張を壁面に掲示し、解決の手がかりにした。

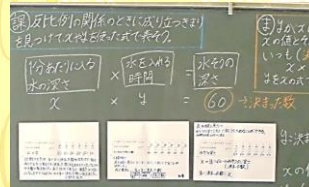


- グループ交流では、「事例の前半はなぜ必要なのか」という視点で、事例の妥当性を検証した。3人グループで交流したことにより、互いの考えが明確になり、自分の考えを修正することができた。



- 自分で資料を選んで文章を書く時には、事例が大切だと気付いた。

6年 算数科 単元名「反比例の関係をくわしく調べよう」



- 反比例の決まった数は、「水そうの深さ」を表していることを確認した。
- 実生活の中に反比例の事象があることに気付くことができた。

成果と課題

(1) 成果

- 単元の初めに何を学ぶか、どんな力がつかのかというゴールを示すこと、1時間ごとの授業の流れを授業の初めに示すことで、児童は見通しを持ち、集中して授業に臨むことができた。
- 前時までの学習を生かし、それを本時につなげることで、本時の課題が明確となり、安心して考えを進めることができた。
- 学び合いの形態を工夫することにより、どの子も自分の考えを筋道立てて説明する機会を得ることができた。自己の考えが明確になり、友達の考えを聞いて、自己の考えを加除・修正することができた。
- 振り返りの工夫により、自己の学びを自覚することができた。

(2) 課題

- 学び合いにおけるグループ交流のさせ方
- 学びを深めるための教師の発問の仕方
- 児童の思考の流れを整理した板書の仕方
- 有用性・汎用性を意識づける教師の働きかけ